

No  
27

## 一日の生活に見通しをもち、状況を捉えて行動する

…人とのかかわり…

### 自分達で考える


今日の活動の話し合い

10月

#### ☆ 視点に関わる背景（4月からの状況） ☆

保育者は、日々の生活の中で、子ども達の「気付き」を大切にし、いかなる場面でも子ども達が考えて行動できるよう配慮しながら働きかけてきた。「～しなさい。」と指示を出す前に「こんな時はどうすればいい?」「なぜ、～をするの?」と働きかけることにより、子どもたちは、時には一人で、時には集団で考えることができるようになってきている。

#### ☆ 接続期の状況（朝のお集まりから） ☆

子どもの姿・子ども同士のかかわり	保育者の援助・視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>登園した子ども達は、順次荷物の片づけをし、年長児の朝の仕事（雑巾かけ等）を終え、各々自由に遊んでいる。保育者は、子ども達の朝の様子から、「一人一人の姿」を観察。</li> <li>保育者の朝のお集まりの声に気づいた子が、声を掛け合い保育者の周りに集まる。保育者は、一日の流れを確認し、子ども達と一緒に降園後の個々の様子を確認する。その後、今日の遊びについての話し合いを始める。</li> </ul> <p>「リズムをしたい。」「昨日の続きのバナナおにをしたい」という意見が出る。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>皆で話し合い、「バナナおに」の後に「リズムをする」こととなる。</li> <li>一日の流れを確認後、それぞれの活動に入る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「今日は何をして遊びますか?」と声をかける。</li> <li>子ども達から出された意見に対して「～しましょう。」という声かけでなく、「みんなは、どうしたい?」というように、子ども達に考えさせる場面を作るようにする。</li> <li>保育者が取り入れたいと意図する活動も伝える。</li> <li>活動の内容によっては、一日の生活の中にどう組み込んでいけばよいかをアドバイスすることで、子ども達の意見をより引き出すようにする。</li> <li>様々な意見が出された中から、可能な活動を選択させる。</li> <li>一日の流れの中で、選択した一つ一つの活動をどの時間に組み込んでいくか考えさせる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>外での遊びも盛り上がり「バナナおに」に夢中になっていた子ども達。自分達から「リズムするんだった～」と一人また一人と遊戯室に集まり、保育者のピアノに合わせ歌を歌い始め、リズムあそびが始まった。</li> </ul>	

#### ☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

この時期は、これまで以上に「自分で考える」「集団で考える」場面をたくさん作ることが大切である。見通しを持ち、自ら行動する力が培われるよう、「～しなさい。」という働きかけの前に、「あなたは、どうしたい?」と考えさせる場面を多く作るようにしている。